

新春座談会 よめ者 地域おこし協力隊は行く!



左から、野口よし紀さん(品川区) 鎌田庸佑さん(平塚市) 荒武優希さん(横浜市)
2016年から「地域おこし協力隊」として町の地域づくりの担い手として活動中

司会(山田直志議員) みなさん明けましておめでとうございます。よろしくお願いします。

三人 おめでとうございます。

司会 3人は、昨年の4月より地域おこし協力隊員として、東伊豆町で活動を始めています。町を選んだ理由とどんなことに取り組んでいるのかを教えてください。

地域おこし協力隊をチャンスと捉えて

野口よし紀 田舎暮らしをしたくて、松崎町の移住体験プランに参加して伊豆を知ることになり、そこで東伊豆町が農業での協力隊を募集している

ことを知って応募しました。今後はここで農業をやる予定です。

鎌田庸佑 伊豆が良かった。自然がいっぱいある事。海があり山があり、でも都心からも近く、田舎田舎してなくて丁度よい。ここで商売をしたい。地域おこし協力隊の3年間をその準備期間としたらと思いい応募した。ここへ来るまでは海外にも行っていたので、海外の雑貨販売を考えていた。今後はコストも係るのでここで商売をして、地元物と合わせた複合的な何でも屋をやりたい。

荒武優希 2年前、学生の時に水産地区の住居のリフォームを行い、昨年

夢の実現へ 一步を踏み出した

司会 半年から9か月が経って、手ごたえもあれば新たな課題も出てきたと思いませんか。

野口 日々伊豆急のオリーブ園で研修している。地方ではどこでも農業が衰退しているが、そうした耕作放棄地がお宝

です。攻めるフィールドだと思っています。ミカン畑を借りることができて、耕作している段階です。大変だけどやりがいを感じています。

自然や町民が資源財産

鎌田 観光協会に出向して仕事をしてきたが、12月から東海汽船営業所の2階の改修が行われており、その活用に合わせ事務所を設けさせてもらい、自分の企画を改修している学生たちとも擦り合わせています。

荒武 僕がやるのではない、町民のみなさんと一緒に活用していくということが大切。落語や料理教室をやり、知らない人が来てくれたり、新しい繋がりが出来たりしています。その中から、一緒にアクションを起こしてくれる人を見つけていければいいなと。どんな人の輪が広がっていく、活動の輪が広がっている

旅行は余りにもパッケージングされすぎている。合理的過ぎて、町の人と触れ合うことがない。普通の町が案外魅力的だったりすることもある。

荒武 ある旅館の成果発表会に参加したが、自分の会社なりの独自性、人、ソフト面で磨いていこう。気概があると感じた。観光関係者や役場の人達などみんなウエルカムで、いろいろ支えてもらって感謝しています。

町おこしの思いが形になる年に

司会 最後にあります。今年の抱負を聞かせて下さい。

野口 借りた畑で作物を作る準備段階なので、作物を作り販売することが目標です。

鎌田 いろいろな人に通った物を販売してもら